

イエスのことば

聖書フォーラム みやま集会
2021年2月13日

出典：“The Life of The Messiah vol.2” Arnord G. Fruchtenbaum, TH.M.,PH.D.

イエスのことば（第11回） P.1

あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました（ルカ4：21）

- 故郷ナザレの会堂で会衆に語ったことば
- 人々は、イエスが語る恵みのことばに驚いた。
- カペナウムの会堂でも、人々はイエスの教えに驚いた。「そのことばに権威があったからである」

イエスの公生涯の起承転結 P.1

起：受洗から、**メシア宣言**を経て、宣教開始まで

承：**メシアとしての権威を現わす**も、

指導者層の拒否を受ける

転：**弟子訓練**

結：エルサレム入城から**十字架**、復活、昇天

文脈の確認 P.1

1. メシアとしての権威を現わす時期

2. 今回は、教えに関する権威

- ルカ4：16～30 故郷ナザレでの教え

- ルカ4：31～32 宣教拠点をカペナウムに

3. ルカ4：32「そのことばに権威があった」

本日のアウトライン

P.1

聖書箇所 ルカ4：16～32

- A) 安息日における会堂での聖書朗読 (4：16)
- B) イエスによる聖書朗読 (4：17～19)
- C) 当時のラビたちの掟を破った (4：20～21)
- D) 会衆の驚き、とまどい、憤り (4：22～31a)
- E) 宣教拠点をカペナウムに (4：31b～32)

2021/2/13

5

A-1) 安息日における会堂での聖書朗読

16節 それから

- ① 紀元27年春、メシア宣言
- ② ユダヤ地方での活動
- ③ サマリア経由でガリラヤ地方へ
- ④ ガリラヤの人々の歓迎を受ける
- ⑤ ルカ4：14 その評判が周辺一帯に広がった
- ⑥ ガリラヤの町カナ、癒しの奇跡
- ⑦ ルカ4：15 会堂で教え、すべての人に称賛された

2021/2/13

6

A-2) 安息日における会堂での聖書朗読

16節 いつもしているとおりに安息日に会堂に入り

- ① イエスは、ガリラヤ地方の町々を巡回し、安息日には会堂で教え、人々の称賛を受けていた
- ② そのいつものとおりに、このたびは故郷の町ナザレで、安息日に会堂に入り、人々に教えようとした

A-3) 安息日における会堂での聖書朗読

16節 朗読しようとして立たれた

- ① 当時の習慣・・・聖書朗読は「立って」、ラビが教えるときは「座って」
- ② **16節**でイエスは、「朗読しようとして立たれた」。そして**20節**で「座った」。会衆はイエスが教えを語ろうとしていることを理解した。そして**21節**、「イエスは人々に向かって話し始められた。

A-3) 安息日における会堂での聖書朗読

③ 聖書朗読の掟

- モーセ五書は3年サイクルで読む箇所が決まっていた
- 会衆の中から、7人の男性が読み手となる
- 7番目の読み手は、先の6人より少ない節数を読む
- ただし、3節を下回ってはいけない
- 7番目の読み手は、続いて預言者の巻からの箇所を読む
- 預言者の巻からの朗読は、21節以上を読む

B-1) イエスによる聖書朗読 P. 3

- ① 17節 イエスに預言者の巻が渡された
→ イエスが7番目の読み手
- ② イエスはモーセ五書（トーラー）の箇所から定められた部分を朗読したはず、
記事では省かれている

B-2) イエスによる聖書朗読

P. 3

18～19節 この朗読は、組み合わせ

- ① イザヤ61：1と58：6を合わせて → 18節
- ② イザヤ61：2の最初の部分だけ → 19節
- ③ イザヤ61：2の後半「神の復讐の日」、読まず
- ④ 神の復讐の日 = 大患難期

イザヤ61：2b～3は、メシア再臨の預言

C-1) イエスはラビたちの掟を破った P. 4

20節

- ① 会衆は、21以上の節数が朗読されると思っていたところがイエスは、わずか数節を読んだだけで預言者の巻を巻き戻し、係の者に渡してしまった
- ② これは明らかに聖書朗読の掟を破るもの、しかもイエスは「座られた」→これから教えを話そうとする姿勢
- ③ この異例な聖書朗読を受けて、会衆の目はいっせいにイエスに注がれた

C-2) イエスはラビたちの掟を破った P. 4

21節

- ① 「きょう」、イエスが語っているその時点で
朗読した部分の預言は成就している、と宣言
朗読しなかった部分は、まだ成就していない
- ② 初臨の目的：「良い知らせ（福音）を伝えるため」
- ③ 再臨の目的：「神の復讐の日を告げるため」
- ④ イエスのことばは、メシア宣言
会衆もその意図を理解した

D-1) 会衆の驚き

P. 4

22節a

- ① ここでイエスは、人々にかなりの内容のことを語った
- ② その内容は、「恵みのことば」=良い知らせ（福音）
当時のラビたちが語り教えた口伝律法とは全く違う
- ③ 人々は、イエスの教えに感銘を受け、驚き、イエスを
ほめた。しかし、同時に故郷の人々には、とまどいも

D-2) 会衆のとまどい

P. 5

22節b この人はヨセフの子ではないか

- ① 人々はイエスを知っていた。両親のことも
- ② イエスがラビになるための正規教育を受けていないことも
- ③ 確かに今、ここでイエスが語ったことは素晴らしい、驚いた。しかし、どこから学んだのか？

D-3) イエスの応答

P. 5

23～27節

- ① 会衆は内心、メシアなら何かしるしを
- ② イエスは旧約聖書から二つの出来事を語る
- ③ かつて預言者エリヤとエリシャが自国の指導者や民から拒絶されたように、イエスもまた拒絶されるであろう
- ④ まずナザレの人々が、そしていずれ民全体が

D-4) 会衆の憤り

P. 5

28～31節a

- ① 会衆の怒りに火がつく
- ② ナザレの町の南側は崖
- ③ イエスを連行して、突き落とそうとした
- ④ しかし、イエスは彼らのただ中を通り抜けて、出て行かれた
- ⑤ そして、イエスはカペナウムまで歩いて下った

2021/2/13

17

E) 宣教の拠点のカペナウムに P. 6

31節b～32節

1. 33節には「そこの会堂」=カペナウムの会堂 イエスは、カペナウムを宣教の拠点とした
2. ことばに権威があった
 - マルコ1：22 「律法学者たちのようではなく」
 - 彼らは、所属する学派から権威を授かった
 - 教え方 あの先生はこう言った、この先生はこう言った
 - イエスは、自分自身に「権威ある者として」語った

2021/2/13

18

E) 宣教の拠点をカペナウムに P.6

ヨハネ3：31～36

イエスの権威は、上から来たもの、
すなわち父なる神から

イザヤ50：4～5（メシア預言）

少年期のイエスは、朝ごとに、父なる神から呼び覚まされ、父なる神から直接、教えを受けた

次回の「イエスのことば」

3月13日（土） イエスのことば 第12回

「黙れ。この人から出て行け」ルカ4：35

悪霊に対するメシアの権威

マルコ1：27「これは何だ。権威ある新しい教えだ。この方が汚れた霊にお命じになると、彼らは従うのだ」